

第2回 勝山市立保育園のあり方検討委員会 議事録

- (1) 日時 令和4年7月27日(水) 午後7時～8時25分
- (2) 場所 福祉健康センターすこやか 多目的ホール
- (3) 参加者 委員7名、事務局7名
- (4) 内容
 - ① 開会
 - ② 協議・説明事項
 - ・各園における少子化の状況について
 - ・他市町村の園数について
 - ・保護者説明会での意見について
 - ③ 質疑応答
 - ④ 閉会

開会

会長あいさつ

各公立保育園の保護者の皆様からいただいたご意見を受けて、委員の皆様には忌憚のないご意見をいろんな角度からいただきたいと思う。

議事

(事務局より説明)

- 野向保育園、平泉寺保育園 園児数の見込み
- 市町村別保育所、認定こども園の園数
- 勝山市立保育園保護者の意見まとめ

質疑応答など

会長 実際の園の経営についてのご意見という話もあったため、願います。

委員 これからの子ども達には負の財産はなるべく残さないようにスリム化するのは大事だと思う。今、小規模園のメリットについて説明があったが、これは全ての大規模園でも小規模園と同様にクリアしている。園児一人ひとりにしっかりと関わっており、縦割り保育で園児同士も大きい子が小さい子のお世話をするなどし、異年齢の関わりもしているので、小規模だからできて、大規模だとできないということはない。その辺に関しては安心してよろしいと考える。あわせて、市街地の私立こども園でも少子化に関して、どういう形がいいのかという話をしている。人数の少ない所を廃園するのも仕方のない選択という話も出ている。自分の園が残って、他の園が残らないという話ではなく、今どうすると勝山市の子ども達に一番良い状況になるのかという話をしている。子ども達の保育内容もあるが、経営も大事である。4・5歳児は30名につき1名の先生、3歳児は20名につき1名の先生、1・2歳児は6名につき1名の先生、0歳児は3名につき1名の先生の配置となっている。収入は、子どもの人数に対して入ってくる。今年は子どもが多く入園しても来年は少ない可能性もある。その中で経営は大変である。市の方がスムーズにいくように補助金も出しているので何とかやっているが、なかなか大変である。子どもが減少することで、その分収入が減ること、質の向上も考えること、働き方改革も入れることを含めて、保育園を単体で残して多機能化をしたらという意見や学童の実施の意見も考えていた。廃園する保育園を老人ホ

ームになど考えたが、利用者がいなくなると施設が要らなくなってしまう。そうなった場合、負の財産として改善しなければならなくなり多額のお金が必要となってしまう。結果として、時と場合によっては廃園しないといけないという気持ちで取り組んでいる。ある物が無くなっていく寂しさや抵抗したい気持ちも分かるが全体として物事を考えていかないと子ども達の幸せに繋がっていかない。

委員 経済面のことで存続するとお金はどれくらいかかるのか、公立と私立でどれくらい公平性が違うのか具体的に数字として挙げていただいた方が説得力がある。具体性がないと理解できないと思うので経営のシミュレーションみたいなものを数字であげてほしい。

事務局 私立では公定価格があり、園の規模にもよるが、園児の年齢に応じて価格単価が決まっており、その分が園の収入となる。学年が高くなればその分単価が安くなってしまふ。その中で給料や施設運営など諸々にお金がかかりながらやりくりを行っている。公立園では職員の人件費や施設管理費を公が負担している。

委員 経済的・経営的にということを出せない内容もあるかもしれないが、目で見えて分かる資料を出すようお願いする。

委員 現在の勝山の保育園・こども園の数が11園だと思うが、定員が何名程度いれば経営的に安定するのか。また園の数が何園になれば安定する定員を目指せるのか。

委員 民営化の時に公立から譲渡された施設が老朽化している。また、子どもの数が減っていることで収入が少なく維持費が高くなっており、単純に園児がどの程度入ってくれば維持できるかということにはならない。人数を減らして少なくすればそれだけ経営が大変になる。子どもの人数が多いから何とかやっていると。定員について何人ぐらいいけば一番いいかという90名位の定員がいいのかなと考える。だが少なくなったらその分で対応しなければならない。私立では補助金（公定価格により勝山市からいただいている収入）が出ているが、すべて赤字となっている。足が出た分は園で対応している。市の方に全額出してもらおうというのは大変難しいだろうと思っている。

事務局 委員が仰った通り、何名がベスト・基準かというのではない。新たに設立しようとする50名は難しく、おそらく100名程の施設からになる。また、定員100名を園の方で一方的に90名に下げる事はできない。下げる場合は子ども・子育て審議会の方で子どもの数に応じてどのくらいの定員にするかを決定することとなっている。少子化が進んでいるため、令和3年4月1日にトータルで市内の子どもの数を見て11園の中から定員を40名減らした。ある園では定員が90名だったところを70名に減らした。定員を減らすことで、子ども1名あたりの市役所から入ってくるお金の単価が上がる。しかし1~2年程は収入が増えたと思うかもしれないが、ずっと続くわけではない。定員が減り、子どもの数が減ったことにより職員を減らす訳にはいかないの、そういったことを含めて、私立園の先生方は苦勞されていると考える。公立においても同じような現状で、年齢の高い職員しかおらず、10数年前から若い職員を全く採用していない。保育園の先生は勝山市の場合、若い人で45.6歳、平均すると50歳位になるだろうと思う。

委員 保護者説明会ではほとんどの方から存続というご意見をいただいていた。小規模園でやれることは私立の園でもできると言っていたがそうなのかなと思っている。自分自身は、地元の園に絶対入園させたいという気持ちはなかった。だが、保護者説明会を

開催してくれたおかげで、他の保護者の意見を聞くことができた。地域性（小学校の近くにあることにより交流ができる）等のご意見を持っている親御さんがとても多く、そこに地元の保育園のメリットがあると感じた。全体を見た時に、経済性や子どもの人数を考えると廃園という方向になるのかなと思ってはいるが、地域の保護者にそういった意見を持っている方がいるという事実を理解してほしい。人数が多くなるが故に自分が目立たなくなっても成り立ってしまうという所があり、小規模だと自分にスポットライトがあたるので、それに喜んでいる保護者もいる。民間のこども園・保育園が連携して、民間の保育園が無くならないようにと話していたが、公立の意義はないのか。公立の園は無くなってもよくて、民間の園は何とか残していけばいいという説明なのか。

事務局 市としては、保育を提供する立場は継続していかないといけない。もし私立園が最後に1つしか残らず、また経営がままならないという状況であれば、今の時代だと指定管理者とかそういった形で社会福祉法人を経営援助していく形になると思う。公立園にすると国・県より補助金はでない。地方交付税という形もあるが、金額としていくらなのかは正直分からない。民間（社会福祉法人）に経営をしてもらえば必ず公定価格の3/4程度は国・県から補助金が出る。公立にしてしまうと市が全負担ということになる。市としては経営・運営は社会福祉法人にお願いし、費用的な面や指定管理をするなり、テコ入れしていくことになると思う。

委員 親の立場からすると経営面等を考えずに残してほしい思いが強い。勝山市としては、経営の面や人数の面等でこのような形だから厳しいと伝えなければ、保護者にご意見をくださいと言っても残してほしいとしか言わないのではないのか。

事務局 土曜日の保育で子ども1名だけを預かる場合、職員を2名配置しなければならない。保育園を存続した場合、例として在籍児が5名しかいなかった場合、職員は何人配置しなければならないのか。保育基準は別として考えるが、職員を3名とすると職員が少なすぎて外にお散歩することができない等のデメリットが生じてくる。シミュレーションをしてみて、運営が厳しい状況であるのは明らかである。

委員 公立2園は保育士が5名ずついるが、多いのではないかと感じた。民間だと、この場合どうなるのか。経済的な面について示してほしい。

委員 公立にいる子どもを私立9園に3名ずつ配置すると職員1~2名で充分。私立では30名の子どもを1名で見ている、公立では5名の子どもを1名で見ていることとなり不平等である。そして、職員の給料は私立は公立の大体1/2しかもらっていない。

委員 保育において、先生は多い方がいいのか。子どもに目が付くということで多い方がいいのかと思うが、子ども達同士の間関係はとても大事であるため、そういうものは補償されるのかどうか。また、5名で生活しているのと20名で生活しているのでは子ども同士の間関係の幅が変わってくるため、その違いはどうか。

委員 勝山市立保育園保護者の要望・意見まとめに書かれている「小学校に入学する歳のねじれ」のことについて専門家の答えを聞きたい。

委員 小規模の園から大規模の小学校に通う場合と、大規模の園から小規模の小学校に通う場合でどちらがいいか一概に言える内容ではない。それぞれの環境や先生の数が違ったりするためである。園生活・小学校では人間関係（友達・先生）の視点が問われて

いく。学校教育というのは年を重ねていくごとに教育面・学習面というのが高まっている（学年が上がれば上がるほど集団での学習から個人の学習の度合いが強くなる）ため、一人一人の学習にはなる。そういうことを考えると園生活は一人一人が先生とだけふれ合って楽しく過ごせばいいという訳ではない。トータルでいえば教育ではあるが、違う視点でみる必要がある。結果として、答えはない。（互いにメリット・デメリットがある）保幼小連携で園から小学校へのつながりは密にやっている。そこを充実させていくことが大切である。

委員 勝山市の園は小学校との連携をしっかりとっている。子どもが行く小学校に顔出しして説明をしたり、授業参観も行っている。また、夏休み中には小学校の先生が保育園・こども園に来て、園児の様子を見学したりしている。

事務局 今はインクルージョンという考えで教育することが、園での重要なファクターである。例として、医療的ケア児を私立こども園で受けていただいている。周りの子ども（友達）と一緒に生活することや周りの子どもの助けがあることで、医療的ケア児が成長している。それとともに、健常児も大人になった時に障害を特別視するのではなく、多様性をあたりまえと受け止められるよう成長している。ただし、少人数の園では難しいのではという意見もある。

委員 私は今まで経済的なことしか考えていなかったが、これまでの話で印象・考えが変わり、こういう視点もあるのだと分かった。今回の話した内容を住民に情報として与えてほしい。少しでも住民の理解が深まればいろんな意見もでてくるだろう。

委員 今回は方向性を決めるのではなく、いろんな方向性について話し合う会になったのではないか。

副会長あいさつ

子どもが減っていくのは仕方のないことである。保護者の方を大切にしながら、勝山市のあり方について話していけたらと思う。

閉会
